

2012年3月期決算説明会 主なQ & A

- Q 今年度の九州新幹線との直通運転による増収効果をどのように見ているのか。
- A 開業2年目となる今年度は、開業景気の反動減が考えられる一方で、3月のダイヤ改正での直通列車「みずほ」「さくら」増発や営業施策などにより、航空機に対する競争力強化や更なる需要の開拓を図り、昨年度並みの増収効果が継続して得られるよう努めてまいりたい。
- Q LCC就航の影響をどのように考えているか。
- A 現在のところ新幹線のご利用に大きな影響が出ているとは考えていないが、今後LCCが運航する路線やフリークエンシーによっては影響が出てくる可能性があるため動向を注視していきたい。
- Q 来年度以降の単体営業費用の水準はどうか。
- A 現段階で具体的な数字は持ち合わせていないが、あえてイメージを申し上げると、減価償却費については、2大プロジェクトの投資がピークを過ぎたものの、今後も安全投資のほか、北陸新幹線金沢開業にかかる車両投資等が控えていることから、大きくは減らないと思っている。動力費については、仮に原子力発電所の停止が長期化した場合、電気料金値上げリスクもあると見ている。その他の費用は概ね今年度の水準で推移し、営業費用全体では、当面は大きく減少することはないと見ている。
- Q キャッシュフローの用途の優先順位についてどのように考えているか。
- A 現時点では、従来から申し上げている通り、安全・成長投資、株主還元、長期債務の返済、という優先順位を基本としていきたいと考えている。
- Q 配当について、今年度末に連結DOE3%の達成は可能か。また、来年度以降の配当方針はどうか。
- A 今年度については、今後の不透明な経営環境による業績悪化リスクや、2大プロジェクトの効果を確認し、中期経営計画でお示しした財務指標が達成できるか見極めたうえで、考えてまいりたい。来年度以降については未定だが、安定的な配当を行っていくことが好ましいと考えている。
- Q 新社長として特に力を入れていきたい経営方針は何か。
- A 安全対策、災害対策を着実に進めていくことが基本であると考えている。また、会社発足25年でどんな変化があったか、次の25年でどのような変化があるのかを念頭においた上で、セグメントごとに具体的な戦略を検討し、次の中期経営計画を策定していきたい。新幹線については競争相手を意識した成長戦略、近畿圏については「地域との共生」による魅力ある街づくりを展開していきたい。その他在来線については、エリア経営を意識し、地域の独自性に着目した事業展開や地域の魅力発信を含めた「地域との共生」に取り組みつつ、バッテリーカーの導入検討など、「技術による変革」を取り入れた効率的な運営体制を構築してまいりたい。鉄道会社、日本全体がどんどん変わっていくだろうということを見据え、長期的な視点で、今から着実に取り組んでいきたい。